

1. 取組を実施した背景(解決すべき地域の課題・目的)

- ・国公立高等学校中途退学者数334人、比率1.7%(全国平均1.4%)、全国ワースト6位(H31.3月末現在)
R元年度の国公立高等学校中途退学者数271人、比率1.5%(全国平均1.3%)。中途退学の理由の上位3項目は、「学校生活・学業不適応」(38.0%)、「進路変更」(29.5%)、「学業不振」(7.4%)となっている。
- ・本県の若者サポートステーション事業の累積登録者数3,033人のうち、48.3%の1,465人が高校未卒である。(H19～R元年度累積)
- ・就労・修学など社会的自立を目指す上で、多くの困難を抱えている。

2. 実施内容

- ・対象: 高等学校未卒の20歳から39歳及び市在住の15歳から19歳の高等学校未卒の社会的自立に困難を抱える若者(高卒認定未取得)
- ・若者サポートステーション(以下、サポステ)の利用者を対象に、学習相談員(サポステスタッフ)及び学習支援員による、個別及び少人数での学習相談、学習支援を実施。
- ・高卒認定試験合格後においても継続した支援をサポステ事業で実施。

4. 対象者の捕捉のための工夫(例:教育部局・福祉部局の情報連携、アウトリーチ等)

- ・教育委員会事務局・福祉部局等と情報連携を図る「学習相談・学習支援」検討会の開催により高卒認定試験実施状況や支援対象者の捕捉、関係機関との連携などについて意見交換を行っている。
- ・地区別連絡会(県内6箇所)の開催や、市町村教育委員会への聞き取り調査により、サポステへの誘導を図っている。
- ・関係機関を訪問しサポステ利用への誘導を行っている。

6. 実施により得られた成果・効果

- ・前年度からの在籍者数60名、R2年度新規登録者数37名(10月末現在)
- ・学習相談延べ614件、実人数87名、学習支援延べ270件、実人数26名
- ・第1回高卒認定試験受験者数10名(県全体65名)、合格者数2名
第2回高卒認定試験受験者数21名(県全体94名)、
- ・就労決定17名(正規1、非正規16)、修学8名(進学5、復学1、高認2)
リファー(他機関への誘導)2名、その他支援終了4名

3. コロナ禍における課題・課題に対する対応方法(ICTや遠隔授業の活用等)

- ・3密を避ける工夫が必要であり、相談や学習のためにビニールついたての設置や、複数人の指導においては個人間の距離がとれる場所の設定などを行った。
- ・学習支援日程の伝達のため、LINEを活用して連絡を交わすことがある。

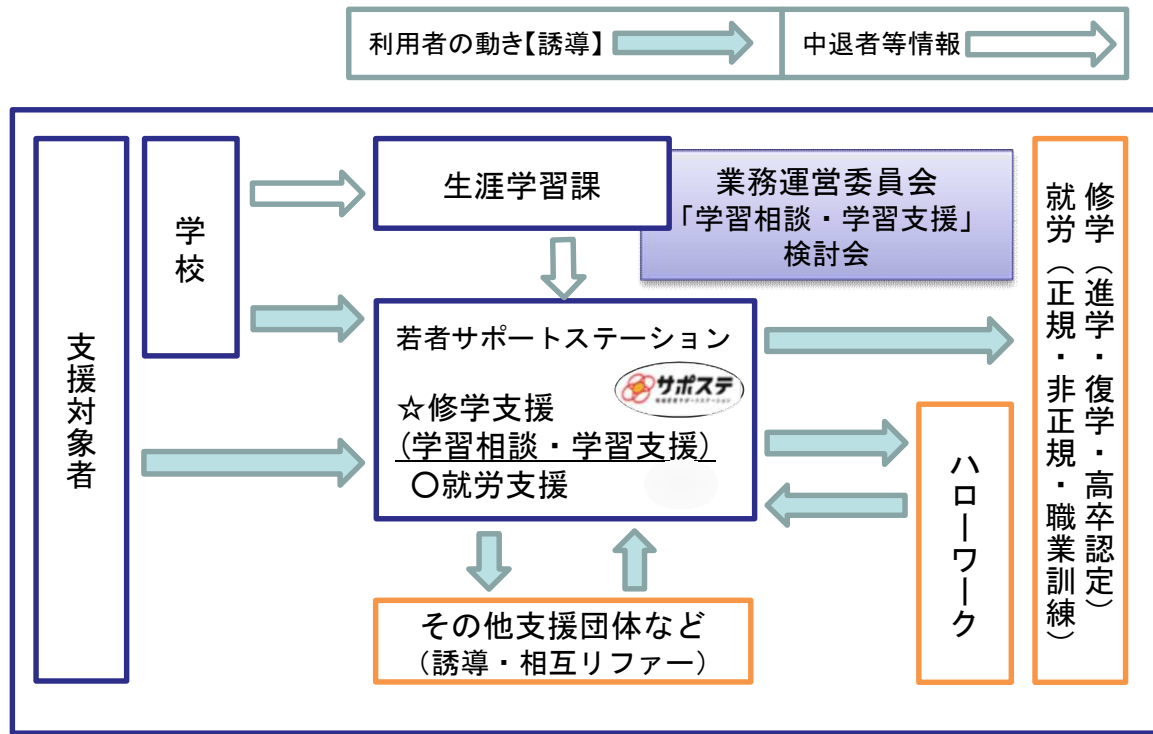
5. 対象者への広報・周知の方法(利用者を集めた方法)

- ・高等学校等との連携による支援対象者の誘導
「若者はばたけネット」により、中学卒業時及び高校中退時の進路未定者の情報を「同意書」「個人情報票」にて収集し、サポステからアプローチを実施し支援につなげる。
学校を会場とした個別相談、セミナー実施等による周知・誘導
- ・サポステ利用者から高校未卒の支援対象者を捕捉
- ・サポステによる出張相談会の開催(県ツイッター発信)

7. 課題・今後の展開

- ・より多くの支援対象者の捕捉及び学習相談・学習支援への誘導
- ・高卒認定受験者数及び合格率の向上
高卒認定取得の有用性の周知、学習支援への参加頻度の向上
(参加者の状況に応じた働きかけと学習習慣の獲得支援)
- ・タブレットやPC、モニタの活用など活用教材にあわせた支援が必要。

8. 実施体制



支援内容

- ・県内5カ所(2サテライト含む)にある若者サポートステーションにて、利用者を対象に、学習相談及び学習支援を実施。
- ・利用者の希望・特性に応じて、少人数制または個別での支援を実施。週1・2回の定期的な開催と個別対応による日時を指定しての開催。
- ・学習内容は小中学校レベルから高卒認定対応レベルとなる。ケースによっては資格取得などに向けた支援も行う。



【学習支援[こうち若者サポートステーション]】



【学習支援[なんこく若者サポートステーション]】



【学習支援[はた若者サポートステーション]】